

## 湯島界限

2013年2月、陽射しは暖かく感じるものの2月の寒さが残る中、栗林君の計画で高橋棟作君、藤保君、亀田君、野村さんの6名で湯島聖堂、神田明神、折り紙会館、湯島天神、旧岩崎邸、不忍池の3時間余の散策をした。

今回の散策場所は御茶ノ水・神田・上野界限で時代小説に沢山出てくる場所であるが、近くに行ったことはあるものの実際に足を運んだこともなく興味深かった。

湯島聖堂はお茶ノ水の聖橋を渡って昌平坂を下り直ぐの場所にあり、昌平は孔子の生誕地をとって名付けたという。

湯島聖堂は孔子廟が中心で孔子を祀っているが、将軍綱吉の時代以降は昌平坂学問所のあった学校教育発祥の地でもある。休日の朝のせいか人も少なく都心とは思えない静けさで黒い建物は何か異様な感がある。



聖橋の説明レリーフ



昌平坂



湯島聖堂入口



孔子像



大成殿入徳門



大成殿



合格祈願の絵馬

神田明神に行く。小説では明神下には銭形平次の住まいがあったところだ。

神田明神の社殿は関東大震災で焼失しているが、もっと古びた社かと思っていたら極採色の社であり、予め考えていた印象と異なった。

しかし、神田明神の祭りは江戸3大祭りの1つであり江戸城に山車が入ったことから天下祭りと称されている由緒ある神社である。



神田明神



神田明神本殿



獅子山



折り紙会館のお雛様

湯島天神に行く途中、折り紙会館に寄る。

ひな祭りに備えてお雛様が飾ってあった。十二単衣を折るのは難しいだろうと思った。



湯島天神は樹齢80年位の300本の主として白梅が咲く梅祭りが開催中のこともあり、庭園は野立てをやっているし、懐かしいカルメラ焼きやさらしアメ等を売っている屋台等が沢山並び大勢の人出である。

梅園は、泉鏡花の「婦系図」で主人公と芸者「お蔭」の別れの舞台で有名だが、学問の神様「菅原道真」を祭神として祀っているのもいるので、学問と縁がある場所ということで、受験シーズンで合格祈願の絵馬が沢山ある。本人の願い、家族の願いがいじらしく感じられる。



湯島天神前



屋台が並ぶ湯島天神



湯島天神本殿



合格祈願の絵馬を書く少年たち



湯島の白梅



梅園の鏡花記念碑



梅園



梅園の一隅にある椿



湯島天神ガス燈

旧岩崎邸は1896年に英人コンドルの設計で建設された三菱の創主岩崎弥太郎の息子の三代目当主岩崎久彌の住まいで現存するのは接客用の洋館、和室、撞球室であり、ボランティアの女性が45分にわたって説明・案内していただき、内部の撮影は禁止だが、木の木目を描いたり、壁紙に金唐革紙を貼ったり、基督の十字の窓に見られるように西洋風、そしてところどころにイスラム模様を入れ、お寺の窓を思わせるようなカットで入口を日本風に作るなど各地の特徴を捉え贅をこらしている。

普通だったら素通りして見過ごしてしまうところを詳しく説明していただきとても良かった。



旧岩崎邸正面



入口通路にある三菱の紋章



庭から見るベランダ



和館





模様シンボル



和庭園の石灯籠



庭石

池の端の弁財天を祀る弁天島を抜け、上野駅構内の仏料理レストラン「ブラスリー・レカン」で食事して解散する。



池の端不忍池



弁財天

(2013年2月17日 井田記)